

令和5年度  
(2023年度)

# 教 育 計 画

滋賀県立総合保健専門学校  
看護専門課程 看護学科  
3年

# 目 次

I 教育目的・目標（看護専門課程 看護学科）	1
1. 教育理念	1
2. 教育目的	1
3. 教育目標	1
II 授業科目・授業時間数および単位数	2
III 実習要綱	
1. 授業科目（臨地実習）	4
2. 実習計画表	5
3. 実習施設	6
IV 行事計画	7
V 授業科目内容	
1. 基礎分野	8
2. 専門基礎分野	2 2
3. 専門分野 I	4 4
基礎看護学	4 5
（臨地実習）	6 2
4. 専門分野 II	6 4
成人看護学	6 5
（臨地実習）	7 1
老年看護学	7 4
（臨地実習）	7 8
小児看護学	8 0
（臨地実習）	8 6
母性看護学	8 7
（臨地実習）	9 1
精神看護学	9 2
（臨地実習）	9 8
5. 統合分野	9 9
在宅看護論	1 0 0
（臨地実習）	1 0 4
看護の統合と実践	1 0 5
（臨地実習）	1 1 0
VI 事例のマトリックス	1 1 1
VII 看護技術のマトリックス	1 1 3

# I 教育目的・目標（看護専門課程 看護学科）

## 1. 教育理念

人々のニーズを的確に捉え、人間尊重を基盤とした看護を迫及し、実践できる専門職業人を育成する。

## 2. 教育目的

看護師として必要な基礎的知識及び技術を主体的に学び、人間の生命の尊厳および人権の尊重を基に地域の人々に貢献し得る有能な人材を育成する。

## 3. 教育目標

- (1) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。
- (2) 人間の健康と生活を、環境との相互作用の観点から理解する能力を養う。
- (3) 人々の健康上の問題に対応するため、科学的根拠に基づいて判断し、実施できる基礎的能力を養う。
- (4) 健康の保持増進、疾病予防と治療、リハビリテーション、終末期など健康や障害の状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。
- (5) 人々に対する共感的態度を身につけ、倫理に基づいた行動がとれる。
- (6) 保健・医療・福祉制度を理解し、他職種の人々と協働しながら看護が実践できる能力を養う。
- (7) 豊かな教養と感性を身につけ、自らを向上させる能力を養う。

## II 授業科目・授業時間数および単位数

		授業科目	単位	時間	年次						
					1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基盤	物理学	1	30	30						
		国語表現法	1	15	15						
		情報科学	1	30			30				
		環境人間学	1	30	30						
		小計	4	105							
	人間と生活、社会の理解	文化人類学	1	30	30						
		人間関係論 I (人間関係形成の基礎)	1	30	30						
		人間関係論 II (援助の人間関係の基礎)	1	15			15				
		哲学	1	30					30		
		教育学	1	30	30						
		心理学	1	30	30						
		英語	1	30	30						
		経済学	1	30					30		
芸術(身体表現)	1	15			15						
小計	9	240									
計			13	345							
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ(細胞と組織、運動器、アレルギー・免疫)	1	30	30						
		解剖生理学Ⅱ(呼吸器・循環器・血液)	1	30	30						
		解剖生理学Ⅲ(消化器・腎泌尿器、生殖器)	1	30	30						
		解剖生理学Ⅳ(神経、内分泌、感覚器)	1	30	30						
		生化学	1	30	30						
		小計	5	150							
	疾病の成り立ちと回復の促進	栄養学	1	30		30					
		薬理学	1	30		30					
		微生物学	1	30		30					
		病理学	1	15	15						
		疾病・治療論Ⅰ(筋・骨格器系疾患、アレルギー・免疫疾患)	1	30		30					
		疾病・治療論Ⅱ(呼吸器疾患、循環器疾患)	1	30		30					
		疾病・治療論Ⅲ(血液・造血器疾患、消化器疾患)	1	30		30					
		疾病・治療論Ⅳ(腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患)	1	30			30				
	疾病・治療論Ⅴ(脳神経疾患、内分泌疾患)	1	30			30					
	疾病・治療論Ⅵ(感覚器疾患)	1	15				15				
	小計	10	270								
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	15						15	
		健康支援論	1	15		15					
		リハビリテーション論	1	15			15				
		社会保障制度	1	30				30			
総合医療論		1	15						15		
関係法規		1	15						15		
小計		6	105								
計			21	525							
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30	30						
		共通基本技術Ⅰ(技術の概念・人間関係成立の技術)	1	15	15						
		共通基本技術Ⅱ(環境・バイタル・感染予防)	1	30	30						
		共通基本技術Ⅲ(看護過程)	2	45		45					
		日常生活援助技術Ⅰ(運動・休息)	1	30	30						
		日常生活援助技術Ⅱ(清潔・衣)	1	30		30					
		日常生活援助技術Ⅲ(食・排泄)	1	30		30					
		診療に伴う技術Ⅰ(診療の補助技術)	1	30		30					
		診療に伴う技術Ⅱ(治療時の看護)	1	30			30				
		臨床看護総論	1	30		30					
	フィジカルアセスメント	1	30			30					
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ(療養生活の理解)	1	45	45						
		基礎看護学実習Ⅱ(日常生活の援助)	2	90		90					
計			15	465							

	授業科目	単位	時間	年次							
				1年次		2年次		3年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30		30					
		成人看護学援助論Ⅰ（急性期にある対象の看護）	2	45			45				
		成人看護学援助論Ⅱ（回復期にある対象の看護）	1	30			30				
		成人看護学援助論Ⅲ（慢性期にある対象の看護）	1	30				30			
		成人看護学援助論Ⅳ（終末期にある対象の看護）	1	30				30			
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ（成人期の特徴をふまえた看護）	2	90			90				
		成人看護学実習Ⅱ（急性期・回復期の看護）	2	90					90		
		成人看護学実習Ⅲ（慢性期・終末期の看護）	2	90						90	
		小計	12	435							
	老年看護学	高齢者看護学概論Ⅰ（老年期、加齢の概念）	1	15		15					
		高齢者看護学概論Ⅱ（高齢者と社会）	1	15			15				
		高齢者看護学援助論Ⅰ（日常生活援助と終末期看護）	1	30			30				
		高齢者看護学援助論Ⅱ（治療処置別・症状別看護）	1	30				30			
	臨地実習	高齢者看護学実習Ⅰ（高齢者の理解）	1	45			45				
		高齢者看護学実習Ⅱ（高齢者の特徴をふまえた看護）	3	135				135			
		小計	8	270							
	小児看護学	小児看護学概論Ⅰ（小児看護の役割）	1	15		15					
		小児看護学概論Ⅱ（小児の成長と発達）	1	30			30				
		小児看護学援助論Ⅰ（疾患の理解と症状別看護）	1	30			30				
		小児看護学援助論Ⅱ（健康の段階、発達段階に応じた看護）	1	30				30			
		臨地実習	小児看護学実習	2	90					90	
		小計	6	195							
	母性看護学	母性看護学概論	1	15		15					
		母性看護学援助論Ⅰ（母性のライフサイクルと看護）	1	30			30				
母性看護学援助論Ⅱ（妊娠期、分娩期の看護）		1	30			30					
母性看護学援助論Ⅲ（産褥期、新生児期の看護）		1	30				30				
臨地実習		母性看護学実習	2	90					90		
	小計	6	195								
精神看護学	精神看護学概論Ⅰ（精神看護の基本概念と精神の健康支援）	1	30		30						
	精神看護学概論Ⅱ（精神保健福祉活動の動向）	1	15			15					
	精神看護学援助論Ⅰ（精神疾患の理解と精神看護の特徴）	1	30			30					
	精神看護学援助論Ⅱ（疾病の経過に応じた看護）	1	30				30				
	臨地実習	精神看護学実習	2	90					90		
	小計	6	195								
	計	38	1290								
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論Ⅰ（在宅看護の概念）	1	15			15				
		在宅看護概論Ⅱ（在宅ケアシステム）	1	15			15				
		在宅看護援助論Ⅰ（日常生活援助・医療処置を伴う援助）	1	30				30			
		在宅看護援助論Ⅱ（在宅で療養する人と家族の援助）	1	30				30			
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90					90		
		小計	6	180							
	看護の統合と実践	総合看護	1	30					30		
		看護医療安全	1	30				30			
		災害看護	1	30					30		
		看護技術評価	1	15					15		
臨地実習	統合実習	2	90					90			
	小計	6	195								
	計	12	375								
合計				99	3000	540	555	600	495	450	360
						39単位		38単位		22単位	

### Ⅲ 実習要綱

#### 1. 授業科目（臨地実習）

分野	授業科目		単位	時間	時期	施設	目的
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ (療養生活の理解)	1	45	1年前期	病院	病院での療養生活を理解し、看護を実践するための基礎的能力を養う。
		基礎看護学実習Ⅱ (日常生活の援助)	2	90	1年後期	病院	看護の対象者を理解し、対象者に合わせた看護を実践するための基礎的能力を養う。
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学実習Ⅰ (成人期の特徴をふまえた看護)	2	90	2年前期	病院	健康障害をもつ成人期の対象の看護を実践する能力を養う。
		成人看護学実習Ⅱ (急性期・回復期の看護)	2	90	3年前期	病院	急性期・回復期にある成人期の対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。
		成人看護学実習Ⅲ (慢性期・終末期の看護)	2	90	3年後期	病院	慢性期・終末期にある成人期の対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。
	老年看護学	高齢者看護学実習Ⅰ (高齢者の理解)	1	45	2年前期	介護老人保健施設 介護老人福祉施設	高齢者の特徴を理解し、看護の実践に必要な基礎的能力を養う。
		高齢者看護学実習Ⅱ (高齢者の特徴をふまえた看護)	3	135	2年後期	病院	疾病や障害をもちながら療養生活をおくる高齢者を理解し、看護を実践できる能力を養う。
	小児看護学	小児看護学実習	2	90	3年	特別支援学校 病院	子どもとその家族を理解し、小児看護を実践する能力を養う。
	母性看護学	母性看護学実習	2	90	3年	病院	周産期を対象を通し、看護が実践できる基礎的能力を養う。
	精神看護学	精神看護学実習	2	90	3年	病院	精神に障害のある対象の特徴を理解し、看護を実践できる能力を養う。
社会復帰施設						社会復帰支援施設での活動を通して、精神に障害のある対象が地域で生活するための支援について学ぶ。	
統合分野	在宅看護論	在宅看護論実習	2	90	3年	訪問看護 ステーション	在宅療養者とその家族を理解し、看護を実践できる能力を養う。
						地域包括支援 センター	地域包括支援センターの活動の実際を理解し、地域包括ケアについて学ぶ。
	合と実践 看護の統	統合実習	2	90	3年後期	病院	既習の学習を統合し、専門職として看護が実践できる能力を養う。



### 3. 実習施設

病 院		訪問看護ステーション	
1	市立野洲病院	1	市立野洲病院訪問看護ステーション
2	淡海医療センター	2	甲賀市社協訪問看護ステーション
3	近江八幡市立総合医療センター	3	訪問看護ステーションなかさと
4	公立甲賀病院	4	訪問看護なかさとCCS
5	湖南病院	5	訪問看護ステーションヴォーリス
6	済生会滋賀県病院	6	守山市社会福祉協議会訪問看護事業所
7	済生会守山市民病院	7	友仁訪問看護ステーションすずらん
8	滋賀医科大学医学部附属病院	地域包括支援センター	
9	滋賀県立小児保健医療センター	1	近江八幡市地域包括支援センター
10	滋賀県立精神医療センター	2	守山市地域包括支援センター
11	滋賀県立総合病院	3	野洲市地域包括支援センター
12	高島市民病院	養護学校	
13	東近江総合医療センター	1	滋賀県立草津養護学校
14	ヴォーリス記念病院	2	滋賀県立野洲養護学校
		精神障害者福祉施設	
		1	社会福祉法人こなんSSN 就労継続支援B型事業所 こなんSSN
介護老人福祉施設		2	社会福祉法人こなんSSN 就労継続支援B型事業所 シエスタ
1	ゆいの里		
2	淡海荘	介護老人保健施設	
3	悠紀の里	1	アロフェンテ彦根
4	美松苑	2	寿々ほうす
5	桐生園	3	滋賀病院附属介護老人保健施設
6	真盛園	4	ケアタウン南草津
7	近江第二ふるさと園	5	ケアポート栗東

(施設名:あいうえお順)



## IV 行事計画

月	1年	2年	3年
4	入学式 入学時研修 親睦会 健康診断	始業式  親睦会 健康診断	始業式  親睦会 健康診断
5			
6	健康診断  特別講義（人権研修）	健康診断	健康診断
7	特別講義  大掃除	特別講義  大掃除	特別講義 2学科学習交流会 大掃除
8	夏期休暇	夏期休暇	夏期休暇
9			
10	防災訓練	防災訓練  2年次研修	防災訓練
11			
12	シンポジウム 個人情報保護研修  大掃除	シンポジウム 個人情報保護研修  大掃除	シンポジウム 個人情報保護研修  大掃除
1	冬期休暇	冬期休暇	冬期休暇
2			(看護師国家試験)
3	大掃除  春期休暇	大掃除  春期休暇	大掃除 卒業式

# V 授業科目内容

# 1. 基礎分野

授 業 科 目		単 位	時 間
科学的思考の基盤	物理学	1	30
	国語表現法	1	15
	情報科学	1	30
	環境人間学	1	30
人間と生活、社会の理解	文化人類学	1	30
	人間関係論Ⅰ（人間関係形成の基礎）	1	30
	人間関係論Ⅱ（援助的人間関係の基礎）	1	15
	哲学	1	30
	教育学	1	30
	心理学	1	30
	英語	1	30
	経済学	1	30
	芸術（身体表現）	1	15
合計		13	345

分野	基礎分野	授業科目名	物理学	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		物理学の基本法則を理解して看護の実践場面で活用できる能力を養う。			
授業のキーワード		力のモーメント てこの原理 ボディメカニクス 圧力 体温制御			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 重いものを持つにはどうしたらよいかを理解できる。	(1) 力のモーメント	①力のモーメント（トルク）とは ②ものを支えるとは ③力のモーメントの応用 ④看護動作にみられる力のモーメントの応用	講義	
		(2) てこの原理	①第1、第2、第3種のとてこ ②てこの原理の人体への活用	講義	
		(3) 筋肉の張力と関節に働く力	①重いものを持つときの基本	講義	
	2. ボディメカニクスについて理解できる。	(1) ボディメカニクスの物理的重点事項	①水平移動、摩擦力 ②急激な速さや方向の変化をさける遠心力、向心力	講義	
		(2) ボディメカニクスの活用	①脊柱起立筋、椎間板にかかる力 ②ベッド上の対象の移動 ③体位変換の時の物理学的考察	講義	
	3. 身近な圧力について理解できる。	(1) 圧力とは	①力と圧力の違い ②圧力の単位 ③大気圧の大きさ ④気圧の変化と人間	講義	
		(2) 体の重心の測定	①人体における重心の測定	講義	
		(3) 治療・検査に関する物理学	①酸素吸入 ②真空採血		
	4. 体温制御の物理が理解できる。	(1) 体温制御の物理	①温度と熱 ②身体各部の温度 ③身体の熱収支の計算 ④体温異常のメカニズム	講義	
テキスト・参考文献		「完全版 ベッドサイドを科学する ―看護に生かす物理学―」 学研			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	国語表現法	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 「読む」・「書く」・「話す」という日本語の表現方法の基礎を理解する。 2. 論文の書き方の基礎を理解する。 3. 論理的思考ができる能力を養う。					
授業のキーワード					
論文		論理的思考	読解力	文章表現力	
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 論理的思考ができる。	(1) 論理的思考	①論理的思考の基礎 ②読解の仕方 ③表現力を磨く		講義
	2. 論文の書き方が理解できる。	(1) 文章表現	①文章作成の原則 ・テーマを見つけるコツ ・キーワードで正しい現状分析 ・問題解決は「論理の3ステップで」 ・事実を観察する目を育てる ・テーマのヒントは「日常の実践」にあり ②文章作成の実際		講義  演習
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	情報科学	担当 講師	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		統計の基礎を学び、調査及び情報処理の基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		情報 調査 分析 インターネット 情報倫理 セキュリティ			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 統計学を学ぶ意義を理解する。	(1) 情報科学の基礎	①情報とは ②情報科学とは ③保健統計の必要性	講義	
	2. 調査方法及び情報の処理について理解する。	(1) 調査データの分析	①扱う数字のタイプ ②母集団と標本 ③一つの変数の分析 ・度数分布表 ・基本統計量 ④二つの変数の分析 ・クロス集計 ・相関	講義	
	3. コンピュータの基本的な活用ができる。	(1) 情報倫理とセキュリティのためのガイド	①著作権 ②情報の公開と個人情報の保護 ③法律の遵守 ④就業規則関係	講義	
		(2) コンピュータの活用のための基礎知識	①基礎知識 ②インターネット	演習	
		(3) ソフトウェアの活用	①Word による文書作成・表作成 ②Excel による表作成・グラフ作成 ③PowerPoint によるプレゼンテーション作成	演習	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	環境人間学	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		環境が人々の生活や健康に及ぼす影響について学び、人間とその生活について理解する基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		地球環境 環境問題 現代社会の環境 滋賀の環境			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 環境が人々の生活や健康に及ぼす影響について理解する。	(1) 地球環境	①人々の生活と環境 地球環境問題	講義	
	2. 環境の今後の課題について理解する。	(1) 環境問題の歴史	①環境問題の歴史的変遷 公害（大気、水、音、化学物質） 核実験 高度経済成長と大量消費 地球規模の環境破壊	講義	
		(2) 現代社会の環境と健康問題	①現代社会の環境からみた健康問題 オゾン層の破壊と紫外線 温暖化、乾燥化 大気汚染他	講義	
		(3) 環境問題克服のための取り組み	①環境問題の克服 概説 国連・政府の取り組み 環境法、環境経済の必要性、3R	講義	
		(4) 身近な環境	①滋賀の環境と環境問題の今後の課題 滋賀の環境 琵琶湖・山々・居住地	講義	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	文化人類学	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		個人や社会、文化について、また、他民族の生活様式・風俗・儀礼などを学び、多様な人間と人間の生活について理解する基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		人間 文化 生活 フィールドワーク 異文化理解 信仰 死			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 人間・社会・文化についての基礎を理解できる。	(1) 人間と文化	①言語とは何か ②シンボルと文化 ③異文化へのアプローチ ④フィールドワーク	講義	
		(2) 人間関係と社会	①男と女 生殖、婚姻、家族 ②おとなと子ども 通過儀礼 ③身内とよそ者 親族、ネットワーク	講義	
		(3) 生活	①集団と社会 ②農耕、狩猟、経済	講義	
		(4) 信仰	①日常生活の中の宗教 ②信仰・世界観・儀礼	講義	
		(5) 死	①文化と身体観 ②文化と病気観 ③文化と病気治療 ④死の考え方 ⑤死者儀礼と先祖崇拝	講義	
	2. 他民族の文化・社会を通し、多様な人間について理解できる。	(1) 多様な人間・文化・社会	①他民族の多様な人間・文化・社会	講義	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			



分野	基礎分野	授業科目名	人間関係論 I (人間関係形成の基礎)	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		人間関係の基礎理論を理解し、人間対人間関係を築くための能力を養う。			
授業のキーワード		人間関係 自己理解 他者理解 コミュニケーション 集団討議			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 保健・医療における人間関係の重要性及び人間関係の理論と技法を理解できる。	(1) 人間生活と人間関係	①自己紹介・他者紹介 ②心の構造について ③自己を知ること ④人間関係のとらえ方	講義 演習	
	2. 社会的相互作用と社会的役割が理解できる。	(1) 社会的相互作用	①自己と他者 ②アイデンティティと人間関係 ③他者による承認 ④社会的相互作用を規定する要因 ⑤成員相互過程、集団討議	講義 演習	
		(2) 社会的役割	①社会的役割とは ②役割関係における葛藤とその解決	講義	
	3. 人間関係形成の技法が理解できる。	(1) コミュニケーションの理論と実際	①コミュニケーション理論 ②ブラインドウォークの体験	講義 演習	
		(2) 人間関係向上へのスキル	①体験学習を通して基本姿勢の理解 共感的理解 自分や他者を受容する 感受性を豊かにする	講義 演習	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業 科目名	人間関係論Ⅱ (援助的人間関係の基礎)	担 当 講 師	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実 務 経 験	
授業の目的及びねらい		援助的コミュニケーションを理解し、専門職として他者と関係を築くための能力を養う。			
授業のキーワード		人間関係 自己理解 他者理解 カウンセリング 援助的コミュニケーション			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. カウンセリングの基本的理論について理解できる。	(1) カウンセリングの意義	① カウンセリングの意義 ② 対人援助の種類 ③ 人の話を聞くこと ④ カウンセリングの基本的態度 ⑤ カウンセリングの技法 ⑥ 人間関係のとらえ方	講義 演習	
	2. 援助的コミュニケーションの実際について理解できる。	(1) 援助的コミュニケーション	① 自己理解と他者理解の実際 ② アイコンタクトとうなずき ③ 繰り返し ④ 座り方 ⑤ 表現の読み取り方	講義 演習	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	哲学	担当 講師	
開始 年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経 験	
授業の目的及びねらい					
1. 人間の存在の意味や本質のとらえ方を学び、人間観を深める。 2. 人間の生と死に対する考えを深め、倫理観を養う。					
授業のキーワード					
人間の存在 生と死 倫理 人権 価値観					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 哲学とは何かを理解できる。	(1) 哲学とは何か	①哲学の成立 ②哲学と宗教 ③科学と哲学	講義	
	2. 近代の思想とは何かを理解できる。	(1) 諸外国の哲學家の思想	①近代とは何か ②西洋近代思想 カント デカルト ロック	講義	
	3. 生命倫理問題の経緯とその特質について理解できる。	(1) 生命倫理とは	①生命倫理の基本的な考え方 ②人格論 胎児や脳死など	講義	
	4. 生命の扱いに関する実践問題について理解を深める。	(1) 生と死について	①日本人の死生観 ②安楽死・尊厳死について	講義 演習	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	教育学	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 教育の意義や目的を理解する。 2. 人間の成長と教育のあり方を理解する。 3. 現代の教育の現状と諸問題・課題が理解できる。					
授業のキーワード					
人間	学習	教育	成長		
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 人間の成長・発達と教育が理解できる。	(1)人間の成長・発達と教育	①教育とは ②人間と学習 ③社会と教育 ④教育の必要性	講義	
		(2)子どもの教育と社会	①教育の目的 ②家庭、学校、社会の教育 ③人間の発達と教育	講義	
	2. 現代の教育の現状と課題が理解できる。	(1)家族の変容と教育	①女性の家族における地位 ②日本における主婦の誕生と変化	講義	
		(2)子ども観、教育観の変遷	①普遍的でない子ども価値 ②日本における家庭教育の変化 ③サラリーマン家庭の意識	講義	
		(3)現代家族の課題	①貧困 ②虐待 ③生活習慣	講義	
		(4)教育・保育の歴史	①保育制度の発展 ②公教育制度	講義	
		(5)学校教育の諸問題	①学校教育とジェンダー ②教育における「平等」と「不平等」 ③学校種間連携と接続	講義	
		(6)学校と地域の連携	①学校・家庭・地域の連携 ②チーム学校	講義	
		(7)生涯教育について	①生涯学習と社会教育 ②生涯学習の指導者の役割	講義	
テキスト・参考文献		「改訂 未来に生きる教育学」 あいり出版			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	心理学	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		人間のこころや行動について学習し、人間を理解する基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		人間 こころ 知覚 認知 脳 記憶 知能 学習 発達			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 心理学とは何か理解できる。	(1)心理学の問題	①心理学の対象、定義、考え方 ②心理学の領域 ③心理学の方法	講義 演習	
	2. 人間の知覚の成立条件を学び知覚・認知とズレについて理解できる。	(1)知覚の心理	①知覚の成立条件 ②知覚の種類 ③脳とこころ	講義 演習	
	3. 記憶と忘却について理解できる。	(1)記憶の心理	①記憶の諸相 ③忘却の心理	②記憶の過程 ④記憶の工夫	講義 演習
	4. 思考・想像の相違点と共通点と言語の機能について理解できる。	(1)思考・想像・言語の心理	①思考作用 ③創造性 ⑤言語の心理	②思考力の発達 ④想像の心理	講義 演習
	5. 知能の発達と知能検査について理解できる。	(1)知能の心理	①知能とは ②知能の発達と変化 ③知能検査	講義	
	6. 学習理論と学習に影響する条件を理解できる。	(1)学習の心理	①学習の種類 ③学習に影響する条件	②学習理論 ④練習の心理	講義
	7. 感情・情緒・情操について理解できる。	(1)感情・情緒・情操の心理	①感情の心理 ③情操の心理	②情緒の心理	講義
	8. 自己と他者、個人と集団について理解できる。	(1)適応の心理  (2)性格の心理  (3)集団の心理	①人と環境 ③適応の規制 ①性格の形成 性格の理解、性格検査、適性検査 ①集団の形成と機能 個人と集団、集団の特徴とはたらき ②集合行動	②適応・不適応	講義  講義  講義 演習
	9. 人間各期の発達段階の特徴とその心理について理解できる。	(1)発達の心理  (2)医療と心理学	①発達の原理 ②発達段階の特徴 ①心の病と心理療法	講義  講義	
テキスト・参考文献		心理学 「カレッジ版」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	英語	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経 験	
授業の目的及びねらい					
1. 国際化に対応できるコミュニケーション手段としての英語力、特に「聞く」・「話す」・「読む」能力を養う。 2. 英語の文献が読解できる能力と日常生活の英会話ができる能力を養う。					
授業のキーワード					
読解力 ヒアリング コミュニケーション能力 国際化					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 英文を読んで和訳することができる。	(1) 読解力	①英文の資料にそって和訳	講義	
	2. 英文を聞き内容が理解できる。	(1) ヒアリング	①外国映画の鑑賞	講義	
	3. 英会話ができる。	(1) 日常生活の英会話	①オーラルコミュニケーションの育成 ②医療現場での英会話	講義	演習
テキスト・参考文献		Introduction to Medical English 「医療英語入門－医療の現場から日常のシーンまで」松柏社			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	経済学	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		日本経済の動向を理解し、社会の状況を把握するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		日本経済の動向 日本経済を取り巻く諸問題			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 「経済学とは」を理解できる。	(1) 経済学とは	①経済学の考え方 ②経済学の分類 マイクロ経済学とマクロ経済学 ③経済学の必要性	講義	
	2. 日本経済の動向について理解できる。	(1) 日本経済のあゆみと経済政策	①戦後の経済再建と高度経済成長 ②石油危機と成長率の低下 ③バブルの発生と崩壊	講義	
		(2) 世界経済の変化と日本	①世界経済の動向 ②国際金融市場の動向 ③国際貿易システムの変容	講義	
		(3) 日本経済の現状	①長期停滞とデフレ ②財政赤字の拡大と再建への取り組み ③デフレ下の金融政策 ④日本経済の課題	講義	
	3. 日本経済を取り巻く諸問題について理解できる。	(1) 雇用環境の変化と課題	①労働需給の変化と雇用のミスマッチ ②日本的雇用慣行の変容 ③非正規雇用増加の背景と課題	講義	
		(2) 国民生活の現状と格差問題	①家計の消費・貯蓄の現状 ②家計保有資産の現状と特徴 ③所得格差と貧困	講義	
		(3) 少子高齢化時代の社会保障	①年金・医療・介護 ②子育て支援 ③社会保障と税の一体改革	講義	
テキスト・参考文献		「日本経済読本 第19版」 東洋経済新報社			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目名	芸術 (身体表現)	担当 講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		人間のものの見方や考え方、感情など表現されているものを読み取り、感性を養う。			
授業のキーワード		感性 感情 自己表現			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 身体表現とは何かを理解できる。	(1) 身体表現	① 身体表現とは	講義	
	2. 身体の開放とリフレッシュができる。	(1) 感情表現	① 身体感覚の自覚 ② 身体のはぐし ③ 身体を意識した二人の動き	講義 演習	
	3. 自己表現ができる。	(1) 心地よい自分なりの表現 (2) 規律と自由	① 決められた動きではなく、自身で動きの創作	講義 演習	
テキスト・参考文献		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			



## 2. 専門基礎分野

授 業 科 目		単 位	時 間
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ（細胞と組織、運動器、アレルギー・免疫）	1	30
	解剖生理学Ⅱ（呼吸器・循環器・血液）	1	30
	解剖生理学Ⅲ（消化器・腎泌尿器、生殖器）	1	30
	解剖生理学Ⅳ（神経、内分泌、感覚器）	1	30
	生化学	1	30
疾病の成り立ちと回復の促進	栄養学	1	30
	薬理学	1	30
	微生物学	1	30
	病理学	1	15
	疾病・治療論Ⅰ（筋・骨格器系疾患、アレルギー・免疫疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅱ（呼吸器疾患、循環器疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅲ（血液・造血器疾患、消化器疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅳ（腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅴ（脳神経疾患、内分泌疾患）	1	30
疾病・治療論Ⅵ（感覚器疾患）	1	15	
健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	1	15
	健康支援論	1	15
	リハビリテーション論	1	15
	社会保障制度	1	30
	総合医療論	1	15
	関係法規	1	15
合計		21	525

分野	専門基礎分野	授業科目名	解剖生理学 I (細胞と組織、運動器、アレルギー・免疫)	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		<p>1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、筋骨格系、生体の防御機構のからだの構造と生理機能について学ぶ。</p> <p>2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。</p> <p>3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。</p> <p>4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する。</p>			
授業のキーワード		<p>人体の基本単位 細胞 組織 骨 骨格 筋 皮膚 膜 免疫</p>			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 解剖生理学の基礎知識が理解できる。	(1)解剖生理学の理解 (2)細胞・組織 (3)構造と機能からみた人体	①人体とはどのようなものか ①人体の素材としての細胞・組織 ① 構造と機能からみた人体	講義	
	2. 筋・骨格系の構造と機能が理解できる。	(1)骨格系・筋系	①骨格とはどのようなものか ②骨の連結 ③骨格筋 ④体幹の骨格と筋 ⑤上肢の骨格と筋 ⑥下肢の骨格と筋 ⑦頭頸部の骨格と筋 ⑧筋の収縮	講義	
	3. 生体の防御機構について理解できる。	(1)皮膚 (2)免疫 (3)体温	①皮膚の構造と機能 ①生体の防御機構 ①体温とその調節	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	解剖生理学Ⅱ (呼吸器・循環器・血液)	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経 験	
授業の目的及びねらい		<p>1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、血液、循環器系、呼吸器系のからだの構造と生理機能について学ぶ。</p> <p>2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。</p> <p>3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。</p> <p>4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する。</p>			
授業のキーワード		血液 循環 リンパ管			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 循環器系の構造と機能が理解できる。	(1)循環器系	①循環器系の構成 ②心臓の構造 ③心臓の拍出機能 ④末梢循環系の構造 ⑤血液の循環とその調節	講義	
	2. 血液の機能について理解できる。	(1)血液系	①血液の循環とその調節 ②リンパ管 ③血液	講義	
	3. 呼吸器系の構造と機能が理解できる。	(1)呼吸器系	①呼吸器の構造 ②呼吸	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	解剖生理学Ⅲ (消化器・腎泌尿器、生殖器)	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		<p>1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、消化器系、腎泌尿器系、生殖器系のからだの構造と生理機能について学ぶ。</p> <p>2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。</p> <p>3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。</p> <p>4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する。</p>			
授業のキーワード		<p>栄養 消化 吸収 泌尿器 生殖器 体液 受精 成長 老化</p>			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 消化器系の構造と機能が理解できる。	(1)消化器系	①口・咽頭・食道の構造と機能 ②腹部消化管の構造と機能 ③膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ④腹膜	講義	
	2. 泌尿器系の構造と機能が理解できる。	(1)腎泌尿器系	①腎臓の構造と機能 ②排尿路 ③体液の調節	講義	
	3. 生殖器系の構造と機能が理解できる。	(2)生殖器系	①男性生殖器 ②女性生殖器 ③受精と胎児の発生 ④成長と老化	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	解剖生理学IV (神経、内分泌、感覚器)	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		<p>1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、神経系、内分泌系、感覚器系のからだの構造と生理機能について学ぶ。</p> <p>2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。</p> <p>3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。</p> <p>4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する。</p>			
授業のキーワード		<p>中枢神経 末梢神経 視覚 聴覚 嗅覚 自律神経 内分泌</p>			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 自律神経系の構造と機能が理解できる。	(1) 自律神経系	①自律神経の機能 ②自律神経の構造 ③自律神経の神経伝達物質と受容体	講義	
	2. 内分泌系の構造と機能が理解できる。	(1) 内分泌系	①内分泌系による調節 ②全身の内分泌腺と内分泌細胞 ③ホルモン分泌の調節 ④ホルモンによる調節の実際	講義	
	3. 神経系の構造と機能が理解できる。	(1) 神経系	①神経系の構造と機能 ②脊髄と脳 ③脊髄神経と脳神経 ④脳の高次機能 ⑤運動機能と下行伝導路 ⑥感覚機能と上行伝導路 ⑦自律神経の構造と機能	講義	
	4. 感覚器の構造と機能が理解できる。	(1) 感覚器系	①眼の構造と視覚 ②耳の構造と聴覚・平衡覚 ③嗅覚と味覚 ④頭痛	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	生化学	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		生きている細胞や組織内に存在する様々な物質やそこで起こる様々な化学反応やプロセスを分子レベルで理解する。			
授業のキーワード		生命現象 生体成分 代謝 ATP DNA RNA ホルモン			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 医学を学ぶ者として臨床医学と生化学の関係が理解できる。	(1) 生化学とは	①医学と生化学 ②生体分子 ③生体の構成物質	講義	
	2. 解剖生理学で学んだ内容をもとに、細胞小器官内の生化学的反応が理解できる。	(1) 細胞の基本構造と機能	①細胞の基礎 ②膜 ③細胞骨格 ④細胞小器官	講義	
	3. 生体を構成する細胞の周期と細胞増殖の機構が理解できる。	(1) 生体成分の構造と機能	①糖質 ②脂質 ③アミノ酸とタンパク質 ④核酸	講義	
		(2) 代謝	①酵素と代謝 ②エネルギー代謝とその調節 ③糖質の代謝 ④脂質の代謝 ⑤アミノ酸とタンパク質の代謝 ⑥代謝のまとめ ⑦ヌクレオチドの代謝	講義	
		(3) 核酸とタンパク質の生合成	①核酸の構造と機能 ②DNAの複製 ③DNAの修復 ④RNAの合成 ⑤タンパク質の生合成 ⑥遺伝の生化学	講義	
		(4) ホメオスタシスとホルモン	①ホルモンの分類 ②ホルモンの作用機序 ③ホルモン各論	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔2〕生化学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	栄養学	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 人間にとっての栄養の意義を理解する。 2. 臨床栄養の基礎知識を学び、食事療法の基本を理解する。					
授業のキーワード					
栄養素		栄養所要量		生活習慣病と栄養 臨床栄養	
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 人間にとっての栄養の意義を理解できる。	(1) 栄養学とは	① 栄養学のなりたちと目的	講義	
		(2) 栄養素	① 各栄養素の栄養的目的と役割 ・糖質 ・タンパク質 ・脂質 ・ビタミン ・ミネラル	講義	
		(3) エネルギー代謝とエネルギー所要量	① エネルギー代謝 ② 食事摂取基準とエネルギー必要量 ③ ライフステージと栄養 ④ 食品構成と各種食品の特徴	講義	
		(4) 栄養状態の判定	① 栄養状態の判定 ② わが国の栄養の現状と栄養改善 ③ 飲食物の摂取と消化・吸収	講義	
	2. 臨床栄養の基礎知識を学び、食事療法の基本が理解できる。	(1) 臨床栄養の意義	① 臨床栄養の意義	講義	
		(2) 食事療法の概要	① 食事療法の概要 ・栄養状態の評価 ・栄養摂取経路の選択 ・摂取エネルギーの求め方 ・疾病時の栄養所要量 ・病人食の種類 ・食事療法 ② 疾患別食事療法の実際	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			





分野	専門基礎分野	授業科目名	微生物学	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する。 2. 感染症の基礎知識を学び、感染症対策の基礎を学ぶ。					
授業のキーワード					
感染症 微生物学 感染症対策					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解できる。	(1) 微生物学の基礎	①微生物と微生物学 ②細菌の性質 ③真菌の性質 ④原虫の性質 ⑤ウイルスの性質	講義	
	2. 感染症の基礎知識を学び、感染症対策の基礎について理解できる。	(1) 感染とその防御	①感染と感染症 ②感染に対する生体防御機構 ③感染源・感染経路からみた感染症 ④感染症の予防 ⑤感染症の診断 ⑥感染症の治療 ⑦感染症の現状と対策	講義	
	3. 主な病原微生物の感染の特徴と診断・治療について理解できる。	(1) おもな病原微生物	①病原細菌と細菌感染症 ②病原真菌と真菌感染症 ③病原原虫と原虫感染症 ④おもなウイルスとウイルス感染症	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	病理学	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経 験	
授業の目的及びねらい					
1. 病理学の概念を理解する。 2. 先天性異常の成り立ち、種類を理解する。 3. 組織の退行変性や過形成など進行変性による疾患の成り立ちを理解する。 4. 血液の循環障害による疾患の成り立ちを理解する。 5. 炎症の定義、病変、種類、免疫と疾患について理解する。 6. 腫瘍の定義、性質、種類について理解する。					
授業のキーワード					
病因      先天異常      代謝障害      循環障害      炎症      免疫      腫瘍					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 病理学の概念が理解できる。	(1)病理学の概念	①病理学とは ②病因論 ③疾病の分類		講義
	2. 細胞・組織の変性の成り立ちが理解できる。	(1)細胞・組織の障害と修復	①細胞の損傷と修復 萎縮、肥大、過形成、化生、壊死 ②組織の修復と創傷治癒		講義
	3. 血液の循環障害による疾患の成り立ちを理解できる。	(1)循環障害	①循環血液量の障害 浮腫、充血、うっ血、虚血、出血、ショック ②閉塞性の循環障害 血栓症、塞栓症、梗塞 播種性血管内血液凝固症候群		講義
	4. 先天異常と遺伝子異常の成り立ち、種類を理解できる。	(1)先天異常・遺伝子の異常	①先天異常の分類 遺伝障害・胎児障害 ②染色体異常と遺伝性疾患 ③奇形と胎児障害 ④先天異常の診断・治療		講義
	5. 代謝障害による疾患の種類と成り立ちを理解できる。	(1)代謝障害	①脂質代謝障害 ②タンパク質代謝障害 ③糖質代謝障害 ④その他の代謝障害		講義
	6. 炎症の定義、病変、種類、免疫と疾患について理解できる。	(1)炎症と免疫	①炎症とその分類 ②免疫と免疫不全 ③アレルギーと自己免疫疾患		講義
	7. 腫瘍の定義、性質、種類について理解できる。	(1)腫瘍	①腫瘍の定義と分類 ②悪性腫瘍の広がりや影響 ③腫瘍の発生病理 ④腫瘍の診断と治療		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論 I (筋・骨格器系疾患、アレルギー・免疫疾患)	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 筋・骨格系疾患の病態生理、検査、治療を理解する。 2. アレルギー疾患・免疫疾患の病態生理、検査、治療を理解する。					
授業のキーワード					
筋・骨関節疾患      アレルギー疾患・免疫疾患      病態生理      検査      治療					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 筋・骨格系疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)筋・骨格系疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療を含む) ・骨折、脱臼、神経の損傷 ・筋・腱・靭帯の損傷 ・先天性疾患 ・骨・関節の炎症性疾患 ・骨腫瘍 ・神経の疾患 ・椎間板ヘルニア ・脊髄腫瘍 ・脊髄損傷 ・上肢、下肢の疾患 ・ロコモティブシンドローム・運動器不安定症 ②主な検査 ・画像検査 ・関節造影、脊髄造影検査 ・超音波検査 ・骨密度検査 ・関節鏡 ・関節液検査		講義
	2. アレルギー疾患・免疫疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)アレルギー・免疫疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・アレルギー反応とその機序 ・アレルギー疾患 ・関節リウマチ ・全身性エリテマトーデス ・強皮症 ・皮膚筋炎・多発性筋炎 ・血管炎症候群 ・膠原病類縁疾患 ②主な検査 ・血液検査 ・免疫学的検査 ・画像検査		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論Ⅱ (呼吸器疾患、循環器疾患)	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 呼吸器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。 2. 循環器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。					
授業のキーワード					
呼吸器疾患 循環器疾患 病態生理 検査 治療					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 呼吸器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 呼吸器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療（外科治療を含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>気道の疾患 気管支喘息、気管支拡張症 慢性閉塞性肺疾患</li> <li>肺の疾患 肺結核、肺気腫、肺線維症 肺炎、間質性肺疾患</li> <li>肺腫瘍</li> <li>胸膜・縦隔・横隔膜の疾患</li> <li>胸部外傷</li> </ul> ②主な検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>画像検査</li> <li>内視鏡検査</li> <li>呼吸機能検査</li> <li>血液検査</li> <li>喀痰検査</li> <li>生検</li> </ul>		講義
	2. 循環器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 循環器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療（外科治療含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>心不全</li> <li>不整脈</li> <li>血圧の異常（高血圧）</li> <li>虚血性心疾患 狭心症 心筋梗塞</li> <li>心臓弁膜疾患</li> <li>心筋疾患（心筋症）</li> <li>血管の疾患</li> </ul> ②主な検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>画像検査</li> <li>心電図</li> <li>心臓カテーテル検査</li> <li>心臓超音波検査</li> </ul>		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論Ⅲ (血液・造血器疾患、消化器疾患)	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 血液・造血器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。 2. 消化器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。					
授業のキーワード					
血液・造血器疾患 消化器疾患 病態生理 検査 治療					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 血液・造血器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 血液・造血器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・貧血 ・白血病 ・悪性リンパ腫 ・多発性骨髄腫 ・播種性血管内凝固症候群 ②主な検査 ・末梢血検査 ・骨髄検査 ・リンパ節生検		講義
	2. 消化器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 消化器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療を含む) ・食道の疾患 (食道癌) ・胃・十二指腸潰瘍 ・胃癌 ・腸および腹膜疾患：潰瘍性大腸炎 クローン病、腹膜炎 ・ヘルニア ・イレウス ・腸管ポリープ ・結腸癌・直腸癌 ・肛門疾患 ・肝臓・胆嚢・胆管の疾患 肝炎、肝硬変症、門脈圧亢進症、 肝癌、胆石症 ・膵臓の疾患：膵炎、膵癌 ②主な検査 ・肝機能検査 ・画像検査 ・内視鏡検査 ・腹部超音波検査 ・肝生検		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学〔4〕血液・造血器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論Ⅳ (腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 腎泌尿器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。 2. 女性生殖器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。					
授業のキーワード					
腎泌尿器疾患 女性生殖器疾患 病態生理 検査 治療					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 腎泌尿器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 腎・泌尿器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・腎不全 急性腎不全、慢性腎不全 ・糸球体腎炎 ・ネフローゼ症候群 ・尿路感染症 ・結石症 ・尿路の腫瘍 腎実質腫瘍 腎盂及び尿管腫瘍 膀胱腫瘍、尿道腫瘍 ・泌尿器の疾患 先天異常 前立腺肥大、前立腺癌 ②主な検査 ・尿検査 ・腎機能検査 ・造影検査 ・内視鏡検査	講義	
	2. 女性生殖器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 女性生殖器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療含む) ・性分化疾患 ・子宮がん ・子宮内膜症 ・月経異常 ・不妊症 ・性感染症 ・膣炎 ・子宮筋腫 ・卵巣腫瘍 ・更年期障害 ・不育症 ・乳がん ②主な検査 ・画像検査 ・内視鏡検査 ・頸管粘液検査 ・細胞診 ・ホルモン測定	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔9〕女性生殖器」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論V (脳神経疾患、内分泌疾患)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 脳神経疾患の病態生理、検査、治療を理解する。 2. 内分泌・代謝系疾患の病態生理、検査、治療を理解する。					
授業のキーワード					
脳神経疾患      内分泌・代謝系疾患      病態生理      検査      治療					
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 脳神経疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 脳神経疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療を含む) ・脳血管障害 ・脳腫瘍 ・パーキンソン病 ・脊髄小脳変性症 ・多発性硬化症 ・神経・筋疾患 重症筋無力症 進行性筋ジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症 ②主な検査 ・画像検査 ・髄液検査 ・脳波 ・筋電図		講義
	2. 内分泌・代謝系疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 内分泌・代謝系疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・下垂体の疾患 先端肥大症 (巨人症) 下垂体機能低下症 下垂体性小人症、尿崩症 ・甲状腺機能亢進症 ・クッシング症候群 ・糖尿病 ・脂質異常症 ・蛋白質代謝異常 ②主な検査 ・血液検査 (ホルモン血中濃度) ・尿検査 ・負荷試験		講義
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔6〕内分泌・代謝」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病・治療論VI (感覚器疾患)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経 験	
授業の目的及びねらい		感覚器系疾患の病態生理、検査、治療について理解する。			
授業のキーワード		感覚器疾患 耳鼻咽喉疾患 眼疾患 皮膚疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 耳鼻咽喉疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 耳鼻咽喉疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・中耳炎、難聴、メニエール病 ・副鼻腔炎、鼻炎 ・上顎癌 ・喉頭癌 ・口唇裂、口蓋裂 ②主な検査 ・聴力検査 ・平衡機能検査 ・内視鏡検査 ・画像検査	講義	
	2. 眼疾患の病態、生理、検査、治療について理解できる。	(1) 眼疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・結膜炎、屈折異常 ・白内障、緑内障、網膜剥離 ・糖尿病性網膜症 ・斜視 ・眼瞼疾患 ②主な検査 ・視力・屈折・眼圧検査 ・眼底検査	講義	
	3. 皮膚疾患の病態、生理、検査、治療について理解できる。	(1) 皮膚疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・湿疹・皮膚炎、蕁麻疹 ・皮膚感染症 (一般細菌・真菌・ウイルス) ・腫瘍性疾患 ・膠原病 ・薬疹・中毒疹 ・熱傷 ・凍傷 ②主な検査 ・パッチテスト ・皮膚組織生検	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 成人看護学 [12] 皮膚」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [13] 眼」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			



分野	専門基礎分野	授業科目名	公衆衛生学	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務経験	
授業の目的及びねらい		1. 公衆衛生の概念を理解し、地域で生活するさまざまな人の健康維持・増進のために、我が国がどのような法制度に基づいて活動がなされているかを学ぶ。 2. 地域における保健活動の実際を学ぶ。			
授業のキーワード		健康 生活 環境 制度 保健活動 公衆衛生			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 公衆衛生の概念を理解できる。	(1) 公衆衛生の理念	①公衆衛生とは ②ヘルスプロモーション ③権利とプライマリヘルスケア ④公衆衛生と国際化	講義	
	2. 生活者の健康増進のための法制度および保健活動について理解できる。	(1) 公衆衛生の技術	①疫学と健康指標 ②健康づくりを支援する新しい健康教育 ③集団とコミュニケーションを対象とした政策立案 ④活動計画と実践評価のプロセス	講義	
		(2) 地域保健	①母子保健 ②成人・老人保健 ③精神保健 ④歯科保健 ⑤感染症対策 ⑥難病支援・障害支援	講義	
		(3) 学校と健康	①学校保健	講義	
		(4) 職場と健康	①産業保健	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	健康支援論	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		人間にとっての健康の意味を理解し、健康を維持・増進するための能力を養う。			
授業のキーワード		健康      ライフスタイル      健康行動      生活習慣      QOL      環境      予防			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 健康を取り巻く現代社会の状況が理解できる。	(1) 現代社会の現状と健康支援	①社会構造の変化 ②疾病構造の変化 ③健康の価値観の多様化 ④ライフスタイルと生活環境の変化 ⑤健康支援 (支援される側の立場からの考え)	講義	
		(2) 健康支援の方向性	①疾病や障害予防 ②生活の場に根ざしたQOL ③保健、医療、看護の健康アプローチ 健康の阻害要因の除去と促進要因の高揚 ④個人・社会・環境へのアプローチ	講義	
		(3) 健康支援の取り組み	①個人の自己責任 ②セルフケア (自助) ③行政責任 (公助) ④個人と行政の責任 (共助)	講義	
	2. 健康のレベルを向上させる理論について理解できる。	(1) 健康支援に関するモデルと概念	①健康信念モデル ②エンパワメント ③セルフケア理論	講義	
		(2) 健康支援の実際	①事例を通して理論の理解 支援される立場からの視点	演習	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	リハビリテーション論	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		リハビリテーションの基本的な考え方を理解し、QOLの向上を目指した支援に対する能力を養う。			
授業のキーワード		リハビリテーション 障害分類 障害の評価 障害受容 QOL ノーマライゼーション			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. リハビリテーションの考え方が理解できる。	(1) リハビリテーションの定義  (2) リハビリテーションの目標  (3) リハビリテーションの分野  (4) リハビリテーション医療システム	①リハビリテーションの考え方の変遷 ②リハビリテーションの定義  ①目標としてのノーマライゼーション ②ノーマライゼーションの具体的要素  ①医学的リハビリテーション ②職業的リハビリテーション ③教育的リハビリテーション ④社会的リハビリテーション  ①リハビリテーションの流れ ②チーム医療としてのリハビリテーション	講義  講義  講義  講義	
	2. リハビリテーションにおける倫理と法的問題が理解できる。	(1) 障害の定義と動向  (2) 障害の評価	①障害の概念 ②障害者の定義 ③障害者に対する施策の変遷と基本理念 ④障害の分類と構造  ①機能障害の評価 ②日常生活能力の評価 ③社会活動参加の評価 ④主観的障害（心理面）の評価	講義  講義	
	3. リハビリテーションを必要とする対象の特徴が理解できる。	(1) 運動器系の障害とリハビリテーション (2) 中枢神経系の障害とリハビリテーション  (3) 呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション  (4) 感覚器系の障害とリハビリテーション	①運動機能障害と日常生活動作 ②廃用性症候群  ①脳血管障害のリハビリテーション ②高次脳機能障害のリハビリテーション ③脊髄損傷のリハビリテーション  ①呼吸器リハビリテーション ②虚血性心疾患のリハビリテーション  ① 視覚障害、聴覚障害	講義  講義  講義  講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	社会保障制度	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	
授業の目的及びねらい		社会保障の理念を理解し、社会の中で生活する人の生活問題に対する法律、政策を学ぶ。			
授業のキーワード		憲法 人権 生活者 生活問題 社会保障 社会福祉			
	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 社会保障の理念と基本的な制度が理解できる。	(1) 社会保障の概念	①社会保障の理念 ②社会保障の目的 ③社会保障の機能 ④社会保障の体系	講義	
		(2) 我が国の社会保障制度	①社会保障制度の動向 ②医療保障制度 ③介護保障制度（介護保険制度） ④所得保障（所得保障制度・年金保険制度・労働保険制度） ⑤社会福祉行政のしくみ 社会福祉と医療・看護との連携 社会保障、社会福祉からみた連携をめぐる課題	講義	
		(1) 社会福祉とは	①社会福祉の考え方 ②社会福祉の動向 ③社会福祉法	講義	
	2. 社会福祉の理念と、生活者としての問題に対する政策が理解できる。	(2) 現代社会の変化	①人口の変化 ②地域社会の変化 ③家族・個人の変化 ④経済状況の変化 ⑤雇用状況の変化	講義	
		(3) 社会福祉の諸制度と施策	①老人福祉法 ②障害者基本法 障害者総合支援法 身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 精神保健福祉法 ③母子及び父子並びに寡婦福祉法 児童福祉法 ④生活保護法	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉」医学書院 「福祉小六法」 中央法規			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	総合医療論	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
医療の現状と課題を学び、看護師の果たすべき役割を理解する。					
授業のキーワード					
生命 健康 医療の歴史 医療システム 医療の現状 倫理 医療の動向 地域医療					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 医療・看護の原点が理解できる。	(1) 生命と健康 (2) 病気 (3) 医療の考え方	①生命現象と死 ②健康とは ①生活と病気 ①医療的ケア	講義 講義 講義	
	2. 医療の歴史と医療観の変遷が理解できる。	(1) 医療の歴史	①現代医療の起源 ②20世紀の医療 ③医療観の移り変わり	講義	
	3. 現代日本の医療システムが理解できる。	(1) 生活と医療との関連	①日本の保険医療のしくみ ②生活と環境衛生、保健・福祉行政 ③疾病の一次予防と生活習慣病 ④障害者プラン ⑤こころの健康と精神医療	講義	
	4. 医療技術の進歩の成果と課題について理解できる。	(1) 先端医療技術と課題	①現代医療技術の成果と影響 ②産業社会の発展と健康への影響	講義	
	5. 医療に対する人々の意識変革について理解できる。	(1) 医療体制と人々の意識	①日本の医療供給体制 ②人々の意識 ③インフォームドコンセントの法理 ④医療情報の開示と診療録	講義	
	6. 医療をめぐる新たな視点が理解できる。	(1) 医療の論理 (2) 医療の倫理 (3) 医療の管理	①人々の受療行動 ①生命倫理学 ①医療の質 ②医療の技術評価	講義 講義 講義	
	7. 今後の医療のあり方と医療者に必要な資質が理解できる。	(1) 保健医療の動向と医療者の資質	①保健・医療の新しい動向 ②医療者-患者関係の未来像と求められる資質 ③チーム医療・チームケア ④プライマリーケアの将来像 ⑤医療におけるケアの視点 ⑥地域包括支援システムの展開 ⑦保健・医療システムと住民の役割	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔1〕総合医療論」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目名	関係法規	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 保健師助産師看護師法を中心に、看護職を取り巻く法的背景を理解する。 2. 関係法規を学ぶことにより、看護職の責任と役割を理解する。					
授業のキーワード					
医事法 保健師助産師看護師法 医療法 責任と役割					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 法に関する基礎的知識と、関係法令の基本となる法を理解できる。	(1)法の概念	①看護業務を規定する法と倫理 ②看護者の責務と倫理 ③法の概念 ④医療職のための法規 ⑤厚生労働行政のしくみ	講義	
	2. 看護活動に直接的・間接的に関連する法規が理解できる。	(1)保健師助産師看護師法の歴史的変遷	①保健師助産師看護師法の構造 ②保健師助産師看護師の定義 ③免許・籍の登録・国家試験 ④保健師助産師看護師法の変遷	講義	
		(2)看護に関連する法規	①看護師等の人材確保の促進に関する法律と就職 ②看護師を巡る新しい動き 医療事故、行政処分 ③医師法 ④医療法 ⑤保健衛生法 ⑥薬務法 ⑦社会保険法 ⑧福祉法 ⑨労働法 ⑩個人情報保護に関する法律	講義	
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令」 「看護六法」 新日本法規 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会			医学書院
成績評価の方法		筆記試験100%			

### 3. 専 門 分 野 I

授 業 科 目		単 位	時 間
基礎看護学	基礎看護学概論	1	30
	共通基本技術Ⅰ (技術の概念・人間関係成立の技術)	1	15
	共通基本技術Ⅱ (環境・バイタル・感染予防)	1	30
	共通基本技術Ⅲ (看護過程)	2	45
	日常生活援助技術Ⅰ (運動・休息)	1	30
	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣)	1	30
	日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄)	1	30
	診療に伴う技術Ⅰ (診療の補助技術)	1	30
	診療に伴う技術Ⅱ (治療時の看護)	1	30
	臨床看護総論	1	30
	フィジカルアセスメント	1	30
	(臨地実習)	基礎看護学実習Ⅰ (療養生活の理解)	1
	基礎看護学実習Ⅱ (日常生活の援助)	2	90
合 計		15	465

分野	専門分野 I	授業科目名	基礎看護学概論	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 看護の基本となる概念を理解する。 2. 看護職者を取り巻く環境、及び専門職者としての責任と義務について理解する。 3. 看護の歴史をふまえ、近代理論家の看護を理解する。					
授業のキーワード					
人間 健康 環境 (生活) 看護 看護理論 看護史 保健・医療・福祉サービス 専門職					
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護とは何かが理解できる。	(1) 看護の概念	①看護とは ②看護の定義 ③看護の役割と機能 ④看護実践に求められる倫理	講義	
	2. 近代看護の歴史が理解できる。	(1) 職業としての看護の歴史	①職業としての看護のはじまり ②職業としての看護の確立 ③職業としての看護の充実 ④職業としての看護の新たな展開	講義	
	3. 看護の対象としての人間が理解できる。	(1) 統合体としての人間	①生物体・心理社会的存在としての人間 ②ライフコースと人間 ③人間の欲求と行動	講義	
		(2) 環境と人間	①環境とは ②人に影響を及ぼす環境要因 ③個人・家族・コミュニティ・地域社会	講義	
	4. 健康について理解できる。	(1) 健康の概念	①健康とは ②健康の定義 ・WHOの定義 ・ヘルスプロモーション ・障害の定義 ③人間の健康に影響する要因	講義	
		(2) 健康に関する統計	①人々の生活と健康を示す統計 ・出生から死亡に関する統計	講義	
	5. 専門職としての看護職者について理解できる。	(1) 専門職としての看護	①専門職とは ②看護の専門職化 ・法的な規定	講義	
		(2) 看護職の養成制度	①看護職の養成制度と就業状況 ②看護基礎教育 ③継続教育 ・専門看護師 ・認定看護師 ・認定看護管理者 ・特定行為にかかる看護師の研修制度	講義	



	<p>6. 看護を取り巻く保健医療福祉サービスが理解できる。</p>	<p>(1)保健・医療・福祉サービスにおける看護</p> <p>(2)保健・医療・福祉の提供システム</p>	<p>④看護職者の養成制度の課題</p> <p>①保健、医療、福祉とは</p> <p>②保健・医療・福祉サービスにおける理念</p> <p>③保健・医療・福祉における看護</p> <p>①保健・医療・福祉サービスのシステム</p> <p>②保健・医療・福祉サービスを構成する専門職とその役割</p> <p>③看護の提供の場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療施設における看護</li> <li>・福祉施設における看護</li> <li>・地域における看護</li> </ul> <p>④保健・医療・福祉の連携と協働とチームワーク</p>	<p>講義</p> <p>講義</p>
	<p>7. 看護実践のための理論が理解できる。</p>	<p>(1)看護理論</p> <p>(2)近代看護理論家の理論</p>	<p>①看護理論とは</p> <p>②看護理論の分類</p> <p>③看護理論の変遷</p> <p>①フローレンス・ナイチンゲール</p> <p>②ヴァージニア・ヘンダーソン</p> <p>③アイダ・ジーン・オーランド</p> <p>④アーネスティン・ウィーデンバッグ</p> <p>⑤ジーン・ワトソン</p> <p>⑥ドロセア・オレム</p> <p>⑦ジョイス・トラベルビー</p> <p>⑧カリスタ・ロイ</p> <p>⑨パトリシア・ベナー</p> <p>⑩ヒルデガード・ペプロウ</p>	<p>講義</p> <p>講義 演習</p>
<p>テキスト・参考文献</p>	<p>「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院</p> <p>「看護覚え書き」 現代社</p>			
<p>成績評価の方法</p>	<p>筆記試験 100%</p>			

分野	専門分野 I	授業 科目名	共通基本技術 I (技術の概念・人間関係成立の技術)	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
看護における共通基本技術を学び、看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
看護技術 個人情報 看護記録 人間関係 コミュニケーション クリティカルシンキング リフレクション					
時間	目 標	主 題		内 容	指導方法
	1. 看護技術の概念とその重要性が理解できる。	(1) 技術  (2) 看護技術		①技術の定義 ②技術の本質 ①看護技術の定義 ②看護技術の特徴 ③看護技術の原則 安全性・安楽性・自立性・経済性 ④看護技術の範囲 ⑤実践に必要な要素 ・クリティカルシンキング ・リフレクション	講義  講義
	2. 記録の目的と管理が理解できる。	(1) 診療情報と看護記録  (2) 診療情報および記録の取り扱い		①診療情報とは ②看護記録とは ・看護記録の法的位置づけ ③看護記録の目的と意義 ④看護記録の構成 ・基礎情報 (プロフィールを含む) ・看護計画 ・経過記録 (フローシートを含む) ・看護サマリー ①記録における個人情報 ②記録の媒体 ③記録の留意事項と管理 ・記録の開示 ④看護学生の臨地実習における情報と記録の管理	講義  講義
	3. 看護における人間関係の重要性を理解し、その成立のための技法が習得できる。	(1) 看護における人間関係  (2) コミュニケーション		①人間関係と看護 ②相互信頼関係の構築  ①コミュニケーションの基本概念 ②コミュニケーションの基本構造 ③コミュニケーションの種類と概要 ・言語的・非言語的コミュニケーション ・コミュニケーションの技法 ④コミュニケーションに影響する因子 ⑤コミュニケーション過程の分析と活用 ロールプレイを用いる方法 プロセスレコードを用いる方法	講義  講義  演習
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門分野 I	授業科目名	共通基本技術II (環境・バイタル・感染予防)	担当 講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		看護における共通基本技術を学び、看護を実践するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		環境 バイタルサイン 感染予防 標準予防策			
時間	目 標	主 題	内 容	指導方法	
	1. 生活環境を調整することの重要性を理解し、その方法が習得できる。	(1) 健康と生活環境	①環境とは ②環境因子 ③環境調整の意義 ④望ましい環境条件 光 音 室内気候 臭い 空気 プライバシー 色彩	講義	
		(2) 健康障害のある人と生活環境	①入院生活の場における構造・設備・システム 病院・病棟・病室・病床 ②入院生活の場において求められる環境 ・入院生活を安全におくるための環境 ・入院生活を安楽におくるための環境 ・医療者が治療・検査・看護を効果的・効率的に行うための環境 ③環境因子としての看護師	講義	
		(3) 入院生活の場における環境整備	①環境整備の目的 ②環境整備における看護師の役割 ③環境整備の視点 ④病床環境の整備 ＜環境整備＞ 《ベッドメーカーキング》	講義	演習
	2. バイタルサインの測定技術が習得できる。	(1) バイタルサインの測定	①バイタルサインとは ②体温測定 ③脈拍測定 ④呼吸測定 ⑤経皮的動脈血酸素飽和度の測定 ⑥血圧測定 (アネロイド血圧計・電子血圧計) 《バイタルサイン測定》	講義	演習
	3. 感染予防の技術が習得できる。	(1) 医療関連感染	①感染・感染症とは ②医療関連感染とは ③感染の成立と経路	講義	
		(2) 感染予防	①感染予防の目的 ②感染予防の方法 標準予防策(スタンダード・プリコーション) ③感染経路別予防策 ④洗浄・消毒・滅菌 消毒液の希釈法 ⑤感染性廃棄物の取り扱い ⑥針刺し防止策	講義	

		(3)感染予防の実際	①手指衛生 ②エプロン・マスクの着脱 ③無菌操作 ・滅菌物の取り扱い ≪衛生的手洗い・滅菌物の取り扱い 滅菌手袋の着脱・防護用具の着脱≫	演習
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社 「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディカ出版			
成績評価の方法	技術試験 30% 筆記試験 70%			

分野	専門分野 I	授業 科目名	共通基本技術Ⅲ (看護過程)	担 当 講 師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	2単位 45時間	実 務 経 験	
授業の目的及びねらい		看護における問題解決過程を学び、看護が取り扱うべき問題を判断し介入するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		看護過程 ゴードンの機能的健康パターン NANDA-I 看護診断			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護過程が理解できる。	(1) 看護過程とは	①看護過程の定義 ②看護過程の意義 ③看護過程の構成要素 ④看護過程と記録 ⑤看護過程を展開するために必要な能力	講義	
		(2) アセスメント (情報収集)	①情報源・情報収集の手段・情報の種類 ②情報収集における倫理的配慮 ③プロフィール ④アセスメント(情報収集)の方法 データベースアセスメント 焦点アセスメント ⑤看護診断のためのアセスメントツール ・ゴードンの機能的健康パターン 健康知覚/健康管理パターン 栄養/代謝パターン 排泄パターン 活動/運動パターン 睡眠/休息パターン 認知/知覚パターン 自己知覚/自己概念パターン 役割/関係パターン セクシュアリティ/生殖パターン コーピング/ストレス耐性パターン 価値/信念パターン	講義  演習	
		(3) アセスメント (情報分析)	①情報の整理 ②分析 ③統合 ④照合	講義 演習	
		(4) 問題の明確化	①看護診断 ②看護援助(ケア) ③共同問題 ④優先順位の決定	講義	

	(5) 計画	①目標の設定 a) 看護診断における目標設定 b) 共同問題における目標設定 ②看護問題における援助の目的 ③具体策の立案 a) 具体策立案時の留意点 b) 具体策の考え方 c) クリティカルパス 標準看護計画 (SCP)	講義
	(6) 実施	①対象者の状態の確認 ②対象者への説明と同意 ③実施 ④報告 ⑤日々の看護の評価	講義
	(7) 評価	①評価の時期 ②評価の方法	講義
	(8) 対象者の全体像 (関連図)	①関連図とは ②関連図作成の目的 ③関連図の作成方法	講義
	(9) 事例による看護過程 の展開	老年期にある肺炎の対象の事例	演習
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディカ出版 「NANDA—I 看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院 「治療薬マニュアル」 医学書院 「臨床検査データブック」 医学書院		
成績評価の方法	筆記試験 100%		

分野	専門分野 I	授業 科目名	日常生活援助技術 I (運動・休息)	担 当 講 師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的及びねらい					
運動と休息の看護を実践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
ボディメカニクス 体位 移動 移乗 移送 活動 運動 運動機能 休息 睡眠 リラクゼーション					
時間	目 標	主 題	内 容		指導方法
	1. 看護におけるボディメカニクスについて理解できる。	(1) ボディメカニクス	①ボディメカニクスとは ②看護におけるボディメカニクスの意義 ③ボディメカニクスの原則		講義
	2. 安楽な体位・体位変換・移動・移乗・移送に関する技術を習得できる。	(1) 安楽な体位  (2) 体位変換の援助  (3) 移動・移乗・移送の援助  (4) 安楽な体位・体位変換・移動・移乗・移送の援助の実際	①体位の種類・特徴 ②体位による影響 ③安楽な体位の保持 ①体位変換とは ②体位変換の目的・方法・留意点 ①移動・移乗・移送とは ②歩行・移乗・移送の援助における目的・方法・留意点 《安楽な体位の保持 体位変換》 《車いす・ストレッチャーへの移乗》 《車いす・ストレッチャーの移送》 《歩行介助》		講義  講義  講義  演習
	3. 活動・運動について理解することができる。	(1) 活動  (2) 運動	①活動とは ②生活における活動の区分 ・ 1次活動・2次活動・3次活動 ③日常生活動作 (ADL) と手段的日常生活動作 (IADL) ④活動の意義 ①運動とは ②運動機能の観察点 a) 動作 b) 姿勢 c) 筋系 d) 骨格系 e) 関節可動域 《筋力の測定・関節可動域の測定》		講義  講義
	4. 休息・睡眠について理解することができる。	(1) 休息・睡眠  (2) 休息・睡眠に関する援助  (3) リラクゼーションを促す援助	①休息・睡眠とは ②休息・睡眠の意義 ③休息・睡眠に影響する要因 ①休息・睡眠における看護師の役割 ②休息・睡眠に関する観察点 ③休息・睡眠に関する援助 ①リラクゼーションとは ②リラクゼーションを促す援助 筋弛緩法 自律訓練法 タッチング 蹠法 指圧 マッサージ 呼吸法 アロマセラピー 音楽療法		演習 講義  講義  講義
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディカ出版 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法	筆記試験 100%				





分野	専門分野 I	授業 科目名	日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄)	担 当 講 師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実 務 経 験	
授業の目的及びねらい		食生活と排泄の看護を実践するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		食生活 排泄			
時間	目 標	主 題	内 容	指導方法	
	1. 日常生活における「食」を理解し、食生活に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における「食」とは	①日常生活における「食」 食事内容 食事行動 ②日常生活における「食」の意義 ③日常生活における「食」に影響する要因	講義	
		(2) 食生活の援助	①食生活の援助における看護師の役割 ②栄養サポートチーム ③食生活に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助の内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・援助の妥当性を判断するための観察点 ④食事内容における援助 ⑤食事行動における援助の目的・方法・留意点 <食事介助>	講義  演習 講義	
	2. 日常生活における排泄を理解し、排泄に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における「排泄」とは	①日常生活における「排泄」 ②日常生活における「排泄」の意義 ③日常生活における「排泄」に影響する要因	講義	
		(2) 排泄の援助	①排泄の援助における看護師の役割 ②排泄に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助の内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・援助の妥当性を判断するための観察点 ③排泄行動の援助における目的・方法・留意点 ・トイレにおける排泄の援助 ・ポータブルトイレでの排泄の援助 ・床上での排泄の援助 ④自然排泄を促す援助 ・自然排便を促す援助 ・自然排尿を促す援助	講義	

		(3)排泄の援助の実際	⑤排泄障害の援助における目的・方法・留意点 ・浣腸 ・導尿（一時的・持続的導尿）  ≪ポータブルトイレでの援助≫ ≪便器の使い方・尿器の使い方≫ ≪グリセリン浣腸≫ ≪導尿≫ <膀胱留置カテーテル管理>	講義   演習
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディカ出版 「看護過程に沿った対症看護 第5版」 学研 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法	筆記試験 100%			

分野	専門分野 I	授業科目名	診療に伴う技術 I (診療の補助技術)	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい		診療に伴う看護を実践するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		診療 診察 検査 与薬 輸血 身体計測 包帯法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 診療における看護の役割が理解できる。	(1) 診療における看護の役割	①診療とは ②診療のプロセス ③診療における看護師の役割	講義	
		(2) 身体計測	①身体計測の目的 ②身体各部の計測 身長・体重・胸囲・腹囲	講義	
		(3) 包帯法	①包帯とは ②包帯の目的 ③包帯使用時の原則と注意点 ④包帯の種類と巻き方 ＜包帯法＞	講義	
	2. 診察における看護師の役割が理解できる。	(1) 診察とは	①診察とは ②診察の目的 ③診察方法	演習 講義	
		(2) 診察における看護師の役割	①安全・安楽に診察を受けるための援助 ②円滑に診察を進めるための援助	講義	
	3. 検査における看護師の役割を理解し、採血の技術が習得できる。	(1) 検査とは	①検査とは ②検査の目的	講義	
		(2) 検査の種類	①生体検査 ②検体検査	講義	
		(3) 検査における看護師の役割	①生体検査時の看護 X線・CT・MRI・超音波検査 ②検体検査時の看護 検体の取り扱い：血液・尿・便・喀痰 ③検査における看護師の役割	講義	
		(4) 静脈血採血の実際	①静脈血採血の部位 ②静脈血採血の方法 《真空管採血》 《注射器採血》	講義	
	4. 薬物療法における看護師の役割を理解し、与薬に関する技術を習得できる。	(1) 薬物療法における看護師の役割	①薬物療法とは ②薬物の種類と吸収・排泄の機序 ③薬物療法における看護師の役割 正しい与薬 観察 薬物管理（毒薬・劇薬・麻薬）	演習 講義	
		(2) 与薬方法と看護	④与薬に伴う事故と安全対策 ①経口与薬法 ②直腸内与薬法（坐薬） ③経皮的与薬法 ④点眼・点鼻・点耳法 ⑤吸入法 ⑥注射法 (皮内注射・皮下注射・筋肉注射・ 静脈内注射・点滴静脈内注射・中心静脈 カテーテル法)	講義	

	5. 輸血療法における看護師の役割を理解できる。	(3) 与薬の実際  (1) 輸血とは  (2) 輸血時の看護	<<皮下注射・筋肉注射>> <<静脈内注射・点滴静脈内注射>> <直腸内与薬> ①輸血とは ②輸血の目的 ③血液製剤の種類と保管 ④輸血の副作用 ⑤輸血前に必要な検査 ①輸血前の看護 ②輸血中の看護 ③輸血後の看護 ④輸血に伴う事故と安全対策	演習  講義  講義
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野 I	授業 科目名	診療に伴う技術II (治療時の看護)	担 当 講 師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的及びねらい		治療に伴う看護を実践するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		集中治療 手術療法 麻酔 ME機器			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 手術療法を受ける 対象の看護が理解 できる。	(1) 手術療法とは  (2) 麻酔  (3) 手術・麻酔が人間に 及ぼす影響 (4) 手術前の看護	①手術療法とは ②手術療法の変遷 ①麻酔とは ②麻酔の種類と作用 ・全身麻酔 (吸入麻酔・静脈麻酔) ・局所麻酔 (硬膜外麻酔・腰椎麻酔・伝達麻酔) ①侵襲とは ②手術・麻酔が各適応様式に及ぼす影響 ①術前看護の目標 ②術後に順調な回復過程をたどるための準備 ・身体の準備 ・精神的準備 ・術後環境の準備 ③全身麻酔下で手術療法をうける対象の術前の標 準看護計画	講義  講義  講義  講義	
	2. 集中治療を受ける 対象の看護が理解 できる。	(1) 集中治療とは  (2) 集中治療を受ける 対象への看護	①手術室の構造と設備 ②術中看護の目標 ③手術室入室から退室まで ④手術室看護師の役割 ①術後看護の目標 ②術後の身体的・精神的変化に基づいた看護 ・術直後から麻酔覚醒まで ・麻酔覚醒から創傷治癒修復まで ③全身麻酔下で手術療法をうける対象の術後の標 準看護計画 ④社会復帰への援助	講義  講義	
	3. 医療機器の原理と 取り扱い方が理解 できる。	(1) 医療機器の原理  (2) 医療機器の取り扱 い方と操作	①集中治療とは ②集中治療を受ける環境 ①集中治療を受ける対象の特徴 ②集中治療を受ける家族の特徴 ③集中治療を受ける対象への看護 ①ME機器とは ②ME機器使用のための基礎知識 ③ME機器取り扱い上の留意事項 ①医療機器の取り扱い方と操作の実際 <心電計 人工呼吸器 輸液ポンプ ベッドサイドモニター シリンジポンプ>	講義  講義	演習
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」 医学書院 「高齢者と成人の周手術期看護」 医歯薬出版株式会社 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野 I	授業科目名	臨床看護総論	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的及びねらい					
1. 疾病の経過をふまえた看護を实践するための基礎的能力を養う。 2. 症状・治療・検査をふまえた看護を实践するための基礎的能力を養う。					
授業のキーワード					
経過別看護 穿刺		痛み ドレナージ	呼吸障害 放射線療法	意識障害	血管造影 内視鏡 核医学検査
1. 疾病の経過をふまえた看護が理解できる。	(1) 疾病の経過をふまえた看護とは (2) 急性期の対象の看護 (3) 回復期の対象の看護 (4) 慢性期の対象の看護 (5) 終末期の対象の看護	①疾病の経過とは ②疾病に基づく「期」 ③疾病の経過をふまえた看護の意義 ①急性期とは ②急性期にある対象の特徴 ③急性期にある対象の看護 ①回復期とは ②回復期にある対象の特徴 ③回復期にある対象の看護 ①慢性期とは ②慢性期にある対象の特徴 ③慢性期にある対象の看護 ①終末期とは ②終末期にある対象の特徴 ③終末期にある対象の看護	①疾病の経過とは ②疾病に基づく「期」 ③疾病の経過をふまえた看護の意義 ①急性期とは ②急性期にある対象の特徴 ③急性期にある対象の看護 ①回復期とは ②回復期にある対象の特徴 ③回復期にある対象の看護 ①慢性期とは ②慢性期にある対象の特徴 ③慢性期にある対象の看護 ①終末期とは ②終末期にある対象の特徴 ③終末期にある対象の看護	講義 講義 講義 講義 講義	
2. 主要症状〔疼痛・呼吸障害・意識障害〕を示す対象の看護が理解できる。	(1) 症状をふまえた看護とは (2) 痛みのある対象の看護 (3) 呼吸障害のある対象の看護 (4) 意識障害のある対象の看護	①症状とは ②症状をふまえた看護の意義 ①痛みとは ②痛みがある対象のアセスメント ③痛みがある対象の看護 ①呼吸障害とは ②呼吸障害がある対象のアセスメント ③呼吸障害がある対象の看護 ④酸素療法を受ける対象の看護 <酸素吸入・酸素ボンベの取り扱い> ⑤気道浄化のための看護 <吸入> ①意識障害とは ②意識障害がある対象のアセスメント ③意識障害がある対象の看護	①症状とは ②症状をふまえた看護の意義 ①痛みとは ②痛みがある対象のアセスメント ③痛みがある対象の看護 ①呼吸障害とは ②呼吸障害がある対象のアセスメント ③呼吸障害がある対象の看護 ④酸素療法を受ける対象の看護 <酸素吸入・酸素ボンベの取り扱い> ⑤気道浄化のための看護 <吸入> ①意識障害とは ②意識障害がある対象のアセスメント ③意識障害がある対象の看護	講義 講義 講義 演習 講義 演習 講義	
3. 特殊な検査をうける対象の看護が理解できる。	(1) 血管造影をうける対象の看護 (2) 内視鏡をうける対象の看護 (3) 核医学検査をうける対象の看護 (4) 穿刺をうける対象の看護	①血管造影の目的・適応・種類 ②血管造影をうける対象の看護 ①内視鏡の目的・適応・種類 ②内視鏡をうける対象の看護 ①核医学検査の目的・適応・種類 ②核医学検査をうける対象の看護 ①穿刺の目的・適応・種類 ②穿刺をうける対象の看護	①血管造影の目的・適応・種類 ②血管造影をうける対象の看護 ①内視鏡の目的・適応・種類 ②内視鏡をうける対象の看護 ①核医学検査の目的・適応・種類 ②核医学検査をうける対象の看護 ①穿刺の目的・適応・種類 ②穿刺をうける対象の看護	講義 講義 講義 講義	

	4. 特殊な治療をうける対象の看護が理解できる。	(1) ドレナージをうける対象の看護  (2) 放射線療法をうける対象の看護	① ドレナージの目的・適応・種類 ② ドレナージをうける対象の看護  ① 放射線療法とは ② 放射線防護の三原則 ③ 放射線療法の副作用 ④ 放射線治療をうける対象の看護	講義  講義
テキスト・参考文献	「新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論」 メヂカルフレンド社 「臨床看護学叢書 経過別看護 第2版」 メヂカルフレンド社 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護 第5版」 学研 「系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器 」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器 」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ」 医学書院			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野 I	授業科目名	フィジカルアセスメント	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的及びねらい		身体のアセスメントを実践するための基礎的能力を養う。			
授業のキーワード		フィジカルアセスメント フィジカルイグザム			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. フィジカルアセスメントの意義が理解できる。	(1) フィジカルアセスメントの意義	①フィジカルアセスメントとは ②看護過程とフィジカルアセスメントの関連 ③系統別アセスメントと症状別アセスメント	講義	
	2. フィジカルイグザムが理解できる。	(1) スクリーニング (2) フィジカルイグザムの方法 (3) フィジカルアセスメントの準備	①基本情報の聞き取り ②一般状態の観察 ①視診 ②触診 ③聴診 ④打診 ①環境整備 ②必要物品 ③患者の準備	講義 講義 講義	
	3. 系統別アセスメントが習得できる。	(1) 頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルアセスメント (2) 胸部 (肺・胸郭) のフィジカルアセスメント (3) 胸部 (心臓・血管系) のフィジカルアセスメント (4) 腹部のフィジカルアセスメント (5) 神経系のフィジカルアセスメント	①頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルアセスメントのポイント ②頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ①胸部 (肺・胸郭) のフィジカルアセスメントのポイント ②胸部 (肺・胸郭) のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③≪胸部 (肺・胸郭) のフィジカルイグザムの実際≫ ①胸部 (心臓・血管系) のフィジカルアセスメントのポイント ②胸部 (心臓・血管系) のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③≪胸部 (心臓・血管系) のフィジカルイグザムの実際≫ ①腹部のフィジカルアセスメントのポイント ②腹部のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③≪腹部のフィジカルイグザムの実際≫ ①神経系のフィジカルアセスメントのポイント ②神経系のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③≪神経系のフィジカルイグザムの実際≫	講義 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習	
テキスト・参考文献		「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルシアセスメント」 メディカ出版 「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ」 医学書院			
成績評価の方法		技術試験 20% 筆記試験 80%			



実習名 基礎看護学実習 I (療養生活の理解)

時 期	1年 前期
単位 (時間)	1単位 (45時間)

目的：病院での療養生活を理解し、看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標	行 動 目 標
1. 「入院生活の場」について理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の役割・機能を理解し述べることができる。</li> <li>2. 病棟の構造・機能の特色を理解し述べることができる。</li> </ol>
2. 「入院生活」について理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者の「入院生活」について、述べることができる。</li> <li>2. 対象者の「入院生活」をふまえて、対象者の思いを述べることができる。</li> </ol>
3. 人間関係を成立させるための行動がとれる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者を尊重した行動をとることができる。</li> </ol>
4. 看護師の実践場面から看護について考えることができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象への看護について見学した事実を述べることができる。</li> <li>2. 看護における情報伝達と共有について見学した事実を述べることができる。</li> <li>3. 看護師の関わりをとおして看護について学んだことを述べることができる。</li> <li>4. 実習を通して「看護師を目指すものとして」学んだことを述べることができる。</li> <li>5. 看護についての学びを共有することができる。</li> </ol>

実習名 基礎看護学実習Ⅱ (日常生活の援助)

時 期	1年 後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的：看護の対象者を理解し、対象者に合わせた看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標	行 動 目 標
1. 対象者の情報を収集することができる。	1. 対象者の看護プロフィールを述べるができる。 2. 各機能的健康パターンに必要な対象者の情報を述べるができる。 3. 対象者の情報について逸脱しているものを述べるができる。
2. 対象者に学内で学んだ看護の技術を活用して援助ができる。	1. 対象者に実施する援助の目的を述べるができる。 2. 対象者に応じた援助方法を述べるができる。 3. 実施前に対象者の状況を確認することができる。 4. 実施時に対象者へ説明し、同意を得ることができる。 5. 事前に考えた方法で、援助を実施することができる。 6. 実施した援助について評価することができる。 7. 報告することができる。
3. 人間関係を成立させるための行動ができる。	1. 対象者を尊重した行動をとることができる。 2. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わるができる。